

平成 30 年度第 2 回知床世界自然遺産地域連絡会議

議事概要

平成 31 年 3 月 25 日 (月) 13:30 ~ 15:30
斜里町役場 2 階会議室

議事次第

1. 環境省・林野庁・北海道事業の報告
2. 科学委員会からの報告
3. シンボルマーク部会からの報告
4. その他

●開会挨拶（北海道環境生活部生物多様性保全課自然公園担当課長）

●馬場斜里町長ご挨拶

議事 1. 環境省・林野庁・北海道事業の報告

- 資料 1-1：平成 30 年度 環境省・林野庁・北海道事業の報告
… 環境省、林野庁、北海道より説明。
- 資料 1-2：「H30 シカ年度」個体数調整事業計画及び進捗報告
… 環境省、林野庁、北海道より説明。
- 資料 1-3：平成 30 年度 斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況について
… 知床財団より説明。
- 資料 1-4：「世界自然遺産・知床の日」の取組について
… 北海道より説明。

※【質問・意見なし】

議事 2. 科学委員会からの報告

- 資料 2-1：平成 30 年度第 2 回知床世界自然遺産地域科学委員会報告
… 環境省より説明。
- 資料 2-2：平成 30 年度科学委員会・ワーキンググループ等の予定
… 環境省より説明。

ウトロ地域協議会（桜井）

資料 2-2 「エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定」について、植生指標検討部会では何を課題として議論しているのか。今年度で部会は終了とのことなので、内容について伺いたい。

環境省（高辻）

来年度は植生指標検討部会を開催しないと資料に記載しているが、部会自体が無くなるのではなく、長期的な視点から、植生に関する情報が十分に集まった段階で開催し、集中的に議論する予定である。植生モニタリング調査は、エゾシカによる影響を評価する際の手法の一つであり、知床の各地で実施している。特に知床岬地区での調査については、植生の状態を 4 段階に分け、4 に達したら植生は回復したと評価できるよう、部会で議論を行っている。知床岬地区以外の地区（ルサ、相泊、ホロボツ、岩尾別）においては、知床岬地区での評価方法をそのまま適用するのは難しいので、モニタリング調査を継続しつつ、その応用について長期的な視点で検討することとしている。全ての植物の調査をすることはマンパワー的にも費用的にも難しいため、評価に適した代表的な種（指標種）を選定して評価を行うこととしている。エゾシカの個体数調整をしながら、植生の回復状況をモニタリングすることで、今後の方向性を定めていく予定である。

ウトロ地域協議会（桜井）

調査地区を知床五湖地区まで拡大する予定はあるか。

環境省（高辻）

現在、他の地区を集中的に調査しているため、知床五湖地区まで拡大するかは未定である。

ウトロ地域協議会（桜井）

利用調整地区となる前から、知床五湖地区ではエゾシカによる食害が目立っており、地域住民も食害があったことを認識している。昔から慣れ親しんでいた植物が、エゾシカによる食害で消えていったという変化を地域住民は体感しており、知床五湖の植生には高い関心を持っている。しかし、地域住民が植生について知る機会は限られており、知床五湖の植生はどのように変化しているのか質問されることもある。毎年配布されるニュースレターだけでは不十分である。

知床ガイド協議会（岡崎）

知床五湖地区の植生は回復しており、今まで確認できていなかった花が咲いている。五湖ごとに植生は異なっており、二湖周辺は「クレタマ」という花が増えている。知床岬地区も植生が回復しており、花については58種類ほど確認できた。エゾシカはほとんど見なかったが、ヒグマは増えており、植生がクマに適しているように思える。

斜里町（増田）

補足だが、フレペの滝や岩尾別周辺でもモニタリング調査を実施しており、植生が回復に向かっていることはわかっている。国際自然保護連合（IUCN）はエゾシカの個体数調整を終了する際の指標として植生を挙げているので、知床の代表的な場所で植生指標を設定するための調査を実施している。

■資料2-3：各ワーキンググループ等の経過報告・今後の予定

… 環境省、林野庁、北海道より説明。

■資料2-4-1：現在までの長期モニタリング項目の主要な見直し状況

… 環境省より説明。

■資料2-4-2：知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画（改訂案）

… 環境省より説明。

■資料2-5：平成30年度日露隣接地域における生態系保全協力に関するプログラム事業について

… 環境省より説明。

環境省（高辻）

前回の会議でウトロ地域協議会から質問のあった北方四島の風力発電に関する事項、「北方四島専門家交流の場で、バードストライクの影響について話し合ったのか」について回答する。参加した専門家によると、実際の建設候補地を回るとともに、現地の保護区側の方々と意見交換を行い、計画が実際に出てきた場合には、鳥類を始めとする自然への影響がないかどうかを調べるよう保護区として要望する方向でまとまった。しかし、その後風力発電の計画が進んだという話はなく、イチゴ栽培やウニ養殖のような別の計画が進んでいるようである。

※【質問・意見なし】

議事3. シンボルマーク部会からの報告

■資料3：平成30年度シンボルマーク使用申請許可状況等について

… 知床財団より説明。

※【質問・意見なし】

議事4. その他

羅臼町（遠嶋）

前回の会議では、地域連絡会議の構成団体に羅臼側を代表した関係団体が少ないとの意見があり、また、平成30年度第2回科学委員会では、長期モニタリング計画モニタリング項目の評価に地域の意見も反映させていくべきとの意見があった。知床世界自然遺産の保全に、官民一体となって取り組んでいくために、地域連絡会議の構成団体について見直すべきだと考える。

斜里町（増田）

斜里町も、地域連絡会議の構成団体に行政団体と比べ地域の関係団体が少ないと感じているので、構成団体を再検討すべきだと考える。また、地域連絡会議が地域との情報共有の場ということは理解しているが、行政からの報告内容が多すぎるので、地域に関連が強い事項に絞って報告・協議していくなど、報告内容のあり方も検討すべきである。必要に応じて、地元の関心が強い事項を斜里町・羅臼町からヒアリングするなど、地域の意向を反映させることは可能である。

北海道（小林）

まずは、斜里町・羅臼町と事務局が事務レベルで調整し、方向性を決めていく。この件については、事務局の一任とさせていただきたい。

※【異議なし】

（全体を通じて）

※【質問・意見なし】

本日の会議を終了する。